

基本目標 3

全国や世界で活躍する選手の育成

1 選手の育成強化、指導者養成による競技力向上

10年後の目指す姿

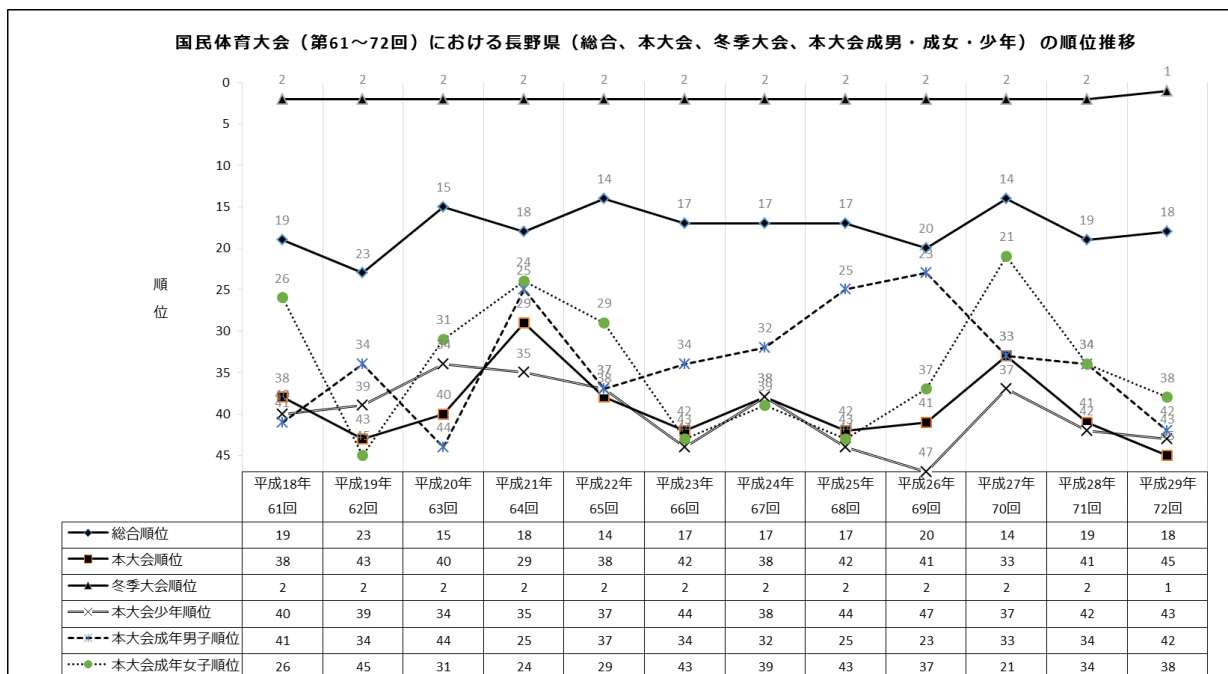
- オリンピックやパラリンピックなど、国際舞台や全国大会で活躍する本県選手が増加している。
- 最先端の医科学サポート等の専門的な指導を受けられるなど、選手の練習設備や支援体制が整備されている。
- ジュニア選手の発掘育成や異種競技へのトランスファー*など、選手の持つ可能性を最大限に引き出す環境が整備されている。

現状と課題

- 選手の育成・強化
 - ・国際大会や全国大会での本県選手の活躍は、県民に元気や勇気を与え、地域の一体感を醸成しています。
 - ・近年の本県の国民体育大会での成績は、冬季国体ではトップレベルを維持していますが、本大会では40位台と低迷が続いています。
 - ・国民体育大会等での活躍が一部の種目に偏っている傾向にあり、競技力全体の底上げが必要です。
 - ・障害予防やトレーニング効果を高めるためにスポーツ医科学の面からの支援が求められています。
 - ・女性アスリート育成のための支援が必要です。
- ジュニアの発掘・育成
 - ・国際舞台や全国大会で活躍できるジュニア期からの選手育成が求められています。
 - ・ジュニア期からの有望選手の発掘は、一部の競技に留まっています。
 - ・少子化やスポーツ離れによるジュニア選手の減少とともに、有力選手の県外流出が続いています。
- 指導者の育成
 - ・指導者の高齢化等による指導技術の継承や、女性指導者の不足などが課題となっています。
- 審判員の養成
 - ・2027年に本県で開催される国体や全国障がい者スポーツ大会を控え、審判員や競技運営員の不足が課題となっています。

2027年国民体育大会 天皇杯・皇后杯獲得を目指す！

- 平成29年度本大会での男女総合成績は45位と厳しい結果となっています。
- 本大会での少年種別獲得得点順位は、平成28年42位、平成29年43位と低迷しています。ターゲットエイジ*からのジュニア選手の発掘・育成が必要です。



(出典)：長野県教育委員会スポーツ課調

施策の展開

- 2027年の国体に向けた競技力向上対策
 - 2027年国体で本県選手が活躍するため、県や関係団体等で構成する「競技力向上対策本部」を設置して、長期的な「競技力向上基本計画」を策定し、計画的に選手育成・指導者養成等に取り組みます。
 - 2027年国体・全国障害者スポーツ大会の開催後も成績を維持できる選手の育成・強化体制の整備を進めます。
 - 本県の競技力向上につなげるため、2027年国体・全国障害者スポーツ大会の審判員や競技運営員等の養成と技術力の向上を図ります。
 - 全国障害者スポーツ大会で、本県選手が活躍できるよう選手の育成を行います。
- 指導者の養成と確保
 - 体育センターの研修を充実し、指導者の資質向上を図ります。
 - 長野県体育協会と連携し、各競技団体が行う指導者育成を支援します。
 - アドバイザーコーチの配置や強化指定指導者制度の創設など指導体制の強化を図ります。
 - 本県ゆかりのオリンピック等の協力を得て、指導者が参加する講習会の開催などを通じて、指導技術の向上を図ります。

- ・指導に係る情報交換や指導技術の共有化を図るため、各競技間における指導者の連携を深めます。
- ・優秀な指導者が、県内に定着し、県内を拠点に活躍できる環境づくりを推進します。

○ ジュニア選手の発掘・育成の推進

- ・小・中学校と連携し、長野県育ちのアスリートとなる子どもたちを発掘する体制を整備します。
- ・SWANプロジェクト事業を推進し、世界で競える高い資質を持った人材を発掘育成します。また、同プロジェクトの共通プログラム等を他種目競技選手の育成にも活用します。

○ 女性アスリートへの支援

- ・女性特有の課題に着目した医・科学サポート等の支援方法の研究を進めます。また、女性指導者の育成に努めます。

○ 一貫指導体制の充実

- ・各競技団体が行う一貫指導体制による選手強化を支援します。

○ マルチサポートの推進

- ・各競技団体が行う強化合宿や強化練習等へのスポーツドクター、トレーナー、栄養士等を派遣し、競技者のコンディショニング調整をサポートします。
- ・競技者、指導者が体力や健康状態を正確に把握し、ドーピング防止等医科学の面からサポートします。

○ 冬季競技の強化

- ・本県の強みでもある冬季競技の選手強化と競技人口の拡大に努めます。

○ 異種競技間交流・合同トレーニングの推進

- ・異種競技間の交流や合同トレーニングの機会を増やし、異種スポーツの知識や技術の活用、選手のトランスファーを進める取組を支援します。

○ トップアスリートとの交流による競技意欲の喚起

- ・トップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室等を開催し、子どもたちがトップスポーツへ夢や憧れを抱き競技に挑む意欲を喚起します。

○ 県立武道館を核とした武道強化

- ・県立武道館にトップレベルの選手・指導者が参加する大会や講習会を誘致し、「みる」機会を充実させ、質の高い指導を行うことで競技人口の増加及び競技力の向上を図ります。
- ・体系的な指導者育成・研修プログラムにより指導者養成を行い、適正で効果的な指導の普及を図ります。

- 大学や企業との連携
 - ・県内の大学・企業等と連携し、ICTや最先端のスポーツ医・科学を利用したトレーニングが受けられる体制の整備を研究します。
 - ・企業に対し、アスリート育成や障がい者スポーツ振興に対する支援の拡大を働きかけます。

- 障がい者アスリートの養成
 - ・障がい者競技団体が行う海外遠征や競技用具購入、医・科学トレーニングに要する費用を助成し、競技力の向上を支援します。
 - ・一般スポーツ競技団体の指導者の障がい者スポーツに関する理解を深め、連携して競技力の向上を支援します。
 - ・障がい者スポーツ地域コーディネーターが、地域の障がい者スポーツの情報を集め、障がい者アスリートとスポーツを支える指導者等とを結びつけます。
 - ・障がい者スポーツの競技人口の拡大と県民の理解や関心を高めるため、パラリンピック等での障がい者アスリートの活躍などを広く情報発信します。

2 スポーツ界の好循環の創出

10年後の目指す姿

- 長野県で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、本県のスポーツ振興を支える好循環が形成されている。
- 高校・大学卒業後も地域や企業に支えられながら、競技と仕事をバランスよく両立できる環境が整っている。
- 本県を代表するアスリートが、交流イベントやスポーツ教室などで県民と交流し、スポーツの魅力を発信している。

現状と課題

- アスリートの県内定着
 - ・アスリートが県内に就職し練習拠点を持ち、全国や世界で活躍できるための環境を整備していく必要があります。
 - ・アスリートの県内就職について企業への働きかけや周知が不足しています。

- アスリートの経験・技術の活用
 - ・アスリートが参加した県民向けのスポーツイベントやスポーツ教室が不足しています。

施策の展開

- 県内を拠点とした競技活動の支援
 - ・県内を拠点として競技活動を続けるため、県内企業等に就職するアスリートを増やす「長野県アスリート就職支援事業*」をさらに充実強化します。
- アスリートとの交流による県民スポーツ参加意欲の高揚
 - ・本県関係アスリートが参加して県民と交流するスポーツイベントやスポーツ教室などの機会を拡大する取組を支援します。

達成目標

<基本目標3> 全国や世界で活躍する選手の育成

◆重要目標達成指標（KGI）

指標名		現 状	目標（2022年度）	備 考
国民体育大会	男女総合（天皇杯）順位	18位 (H29年)	10位以内	10年後に1位を目指す
	冬季大会順位	1位 (H29年)	1位	
	本大会順位	45位 (H29年)	20位台	
国民体育大会（少年）・全国高等学校総合体育大会・全国中学校体育大会の入賞数		218人・団体 (H29年度)	250人・団体	
北京冬季オリンピック（2022年）でSWANからメダリスト輩出		—	1人以上	
ブロック予選を突破して全国障害者スポーツ大会に出場する団体競技数（障がい種別、男女別）		0 (H29年)	4競技	全国障害者スポーツ大会の団体競技数：12競技（障がい種別、男女別）

◇重要業績評価指標（KPI）

SWANプロジェクト育成数

オリンピック育成支援対象者数

長野県アスリート就職支援事業による県内就職アスリート数